

## プレスリリース

NPO 法人 大気イオン地震予測研究会 e-PISCO

平成 23 年 4 月 15 日

報道関係各位

### ①東北地方太平洋沖地震および誘発地震と 大気イオン濃度変化についての見解

### ②東北地方太平洋沖地震の前兆情報募集

このたびの東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)および中部・東日本の地震活動により亡くなられた皆様に深く哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。e-PISCO ではこれらの地震活動と大気イオン濃度変化について、以下のとおり見解を取りまとめました。

また、東北地方太平洋沖地震の前兆現象を記録し、記憶を伝承することによって将来の減災に役立てるため、広く国民の皆様から前兆現象と思われる情報の収集を開始しました。

報道関係各位には、ご多忙中恐縮ではありますが、本件の周知ならびに取材を賜れば幸いです。

弊会の詳細につきましては、下記ホームページをご覧ください。

**<http://www.e-pisco.jp/>**

また、このプレスリリースは <http://www.e-pisco.jp/npo/pr.html> からカラーでご覧になれます。

【お願い】掲載・放送後、記事または DVD を弊会事務局まで郵送くださいますよう、お願い申し上げます。

**本リリースの問い合わせ先・記事送付先(事務局)**

Tel/Fax : 06-6444-3781 E-mail : [npo@e-pisco.jp](mailto:npo@e-pisco.jp)

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1 丁目 4-21

日宝肥後橋中央ビル 304 号

# ①東北地方太平洋沖地震および誘発地震と

## 大気イオン濃度変化についての見解

### 【見解】

われわれ e-PISCO では、全国 7 か所の正規測定点(および 10 か所の補助測定点)にて 24 時間大気イオン濃度の変動を測定することで、地震の予知を目指している。これらの測定点のうち長野・松本測定点および金沢測定点では、2010 年 12 月下旬から 2011 年 3 月下旬までの約 3 か月間にわたって大気イオン濃度異常が頻発するという同測定点では過去に例を見ない現象が測定された。

e-PISCO では正会員向けの「週刊大気イオン変動ニュース」(1 月 21 日号)で「北陸信越地方で M5 クラス」の地震が発生するという予測を発表した。この予測は、最初の異常から約 2 か月経過した 2 月 27 日、岐阜県飛騨地方を震源とする M5.5 の地震が発生したことで、予測成功と考えた。しかし、この地震の後も松本や金沢では大気イオン濃度異常がつづいたこと、さらに先行時間(大気イオンの異常から地震発生までの期間)が長い割には地震の規模が小さかったことを踏まえ、飛騨地方の地震にとどまらず、同程度かさらに大きな地震が発生するおそれがあるものと考え、「週刊大気イオン変動ニュース」においても地震に対して警戒を継続するように、注意を促していた。

松本、金沢の大気イオン異常が収まらない状況で、3 月 11 日 14 時 46 分頃、太平洋プレートと北米プレートの境界で M9.0 の東北地方太平洋沖地震が発生した。その後、北米プレートの西側に存在するユーラシアプレートとの境界に近い地域で、M6 以上の規模の大きな地震が相次いだ。12 日 03 時 59 分には長野県北部で M6.7、12 日 04 時 46 分に秋田県沖で M6.4、15 日 22 時 31 分には静岡県東部で M6.4 が発生している。これらの地震は、いわゆる東北地方太平洋沖地震の余震域とは離れた地域で発生しているが、本震で生じた北米プレートのひずみを解消すべく発生したのと考えられ、広い意味では余震(正確には誘発地震)と考えるべき地震である。

今回の M9.0 巨大地震は想像を絶する規模であったため、前兆現象も思わぬところで発現した可能性がある。すなわち、本来ならば震源に近い測定点で大気イオンの異常が起きると考えられるが、実際には震源に近い岩手・金ヶ崎町などの補助測定点よりも松本、金沢で前兆と思われる異常が現れている。

M9.0 のエネルギーが解放される前には、東北地方が乗っている北米プレート先端部に非常に大きな圧力がかかっていたのは間違いない。北米プレート先端部は細長くなっていることから、太平洋プレートとは反対側のユーラシアプレート側の境界付近にも相当な圧力がかかっていたものと考えられる。その前提に立てば、2 月末の飛騨地方の地震や松本および金沢測定点の異常値も、巨大地震との関連性を否定できない。また、1 月 9 日と 2 月 27 日の静岡・沼津測定点、2 月 14 日の神奈川・厚木測定点の異常値も巨大地震および周辺の地震と関連するものと思われる。ただし、2011 年 1 月から 3 月にかけての期間において、あまりにも多くの大気イオン濃度異常と地震活動があったため、地震前兆としての大気イオン濃度異常を捉え、会員の皆様に注意を促すことはできたものの、東北地方太平洋沖地震やそれに誘発されて発生したと考えられる地震活動を

地震予知の三要素(日時、場所、規模)に即して的確に予測することはできなかった。

地震予知を研究テーマに選び、震災による被害の減災を目的に掲げながら、このような未曾有な大震災(大地震)を事前に予測できなかった点は、本法人として関係者一同が深く反省しているところである。大気イオンによる地震予知については、海域で発生する地震についてはその予測精度が低下することや測定点の不足が指摘されており、今回の地震によって新たに判明した点も踏まえた上で、今後の活動に生かしていきたいと考えている。

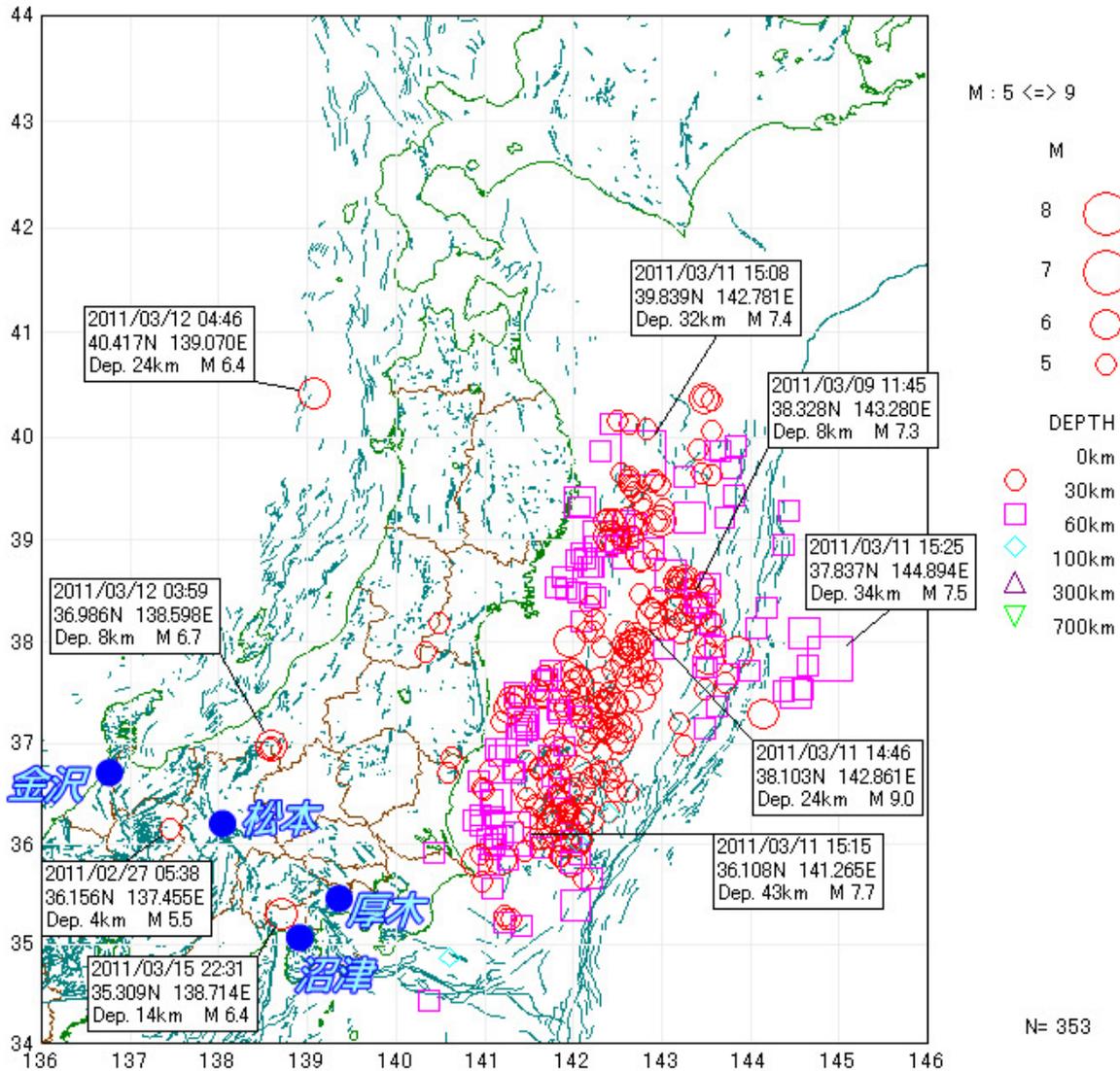
## 主な地震

(2011年1月1日～3月17日のM5.5以上。ただし、東北地方太平洋沖地震の震源域はM7.0以上)

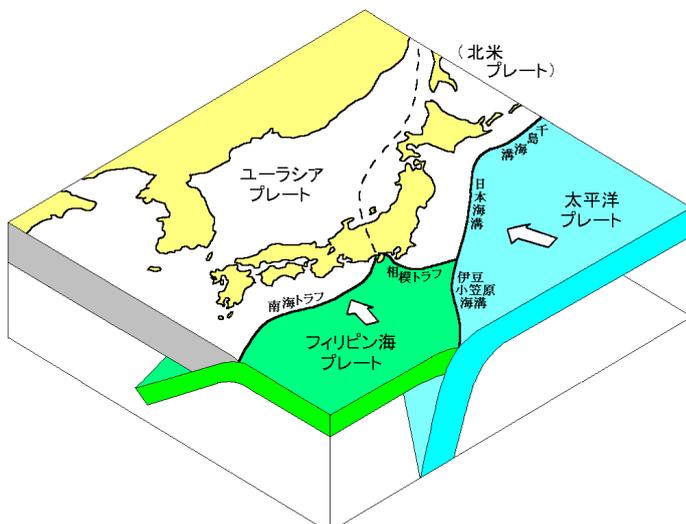
No.	日時	震央	M	深さ (km)	最大 震度	震央距離(km)			
						金沢	松本	沼津	厚木
1	2011/02/27 05:38:02.6	岐阜県飛騨地方	5.5	4.3	4	85.1	45.9	167.1	186.1
2	2011/03/09 11:45:12.9	三陸沖	7.3	8.3	5弱	610.5	524.9	530.8	471.5
3	2011/03/11 14:46:18.1	三陸沖	9.0	23.7	7	568.5	481.3	486.7	427.5
4	2011/03/11 15:08:53.5	岩手県沖	7.4	31.7	5弱	639.9	581.7	626.8	570.8
5	2011/03/11 15:15:34.4	茨城県沖	7.7	43.2	6弱	412.5	297.3	244.3	186.6
6	2011/03/11 15:25:44.4	三陸沖	7.5	34.0	4	737.4	640.6	618.5	559.7
7	2011/03/12 03:59:15.6	長野県北部	6.7	8.4	6強	173.6	100.8	205.1	180.0
8	2011/03/12 04:31:55.6	長野県北部	5.9	0.8	6弱	170.5	96.1	201.2	177.1
9	2011/03/12 04:46:47.6	秋田県沖	6.4	24.0	4	469.4	474.4	585.8	549.1
10	2011/03/15 22:31:46.3	静岡県東部	6.4	14.3	6強	232.7	124.0	20.5	60.4

# 震源分布図

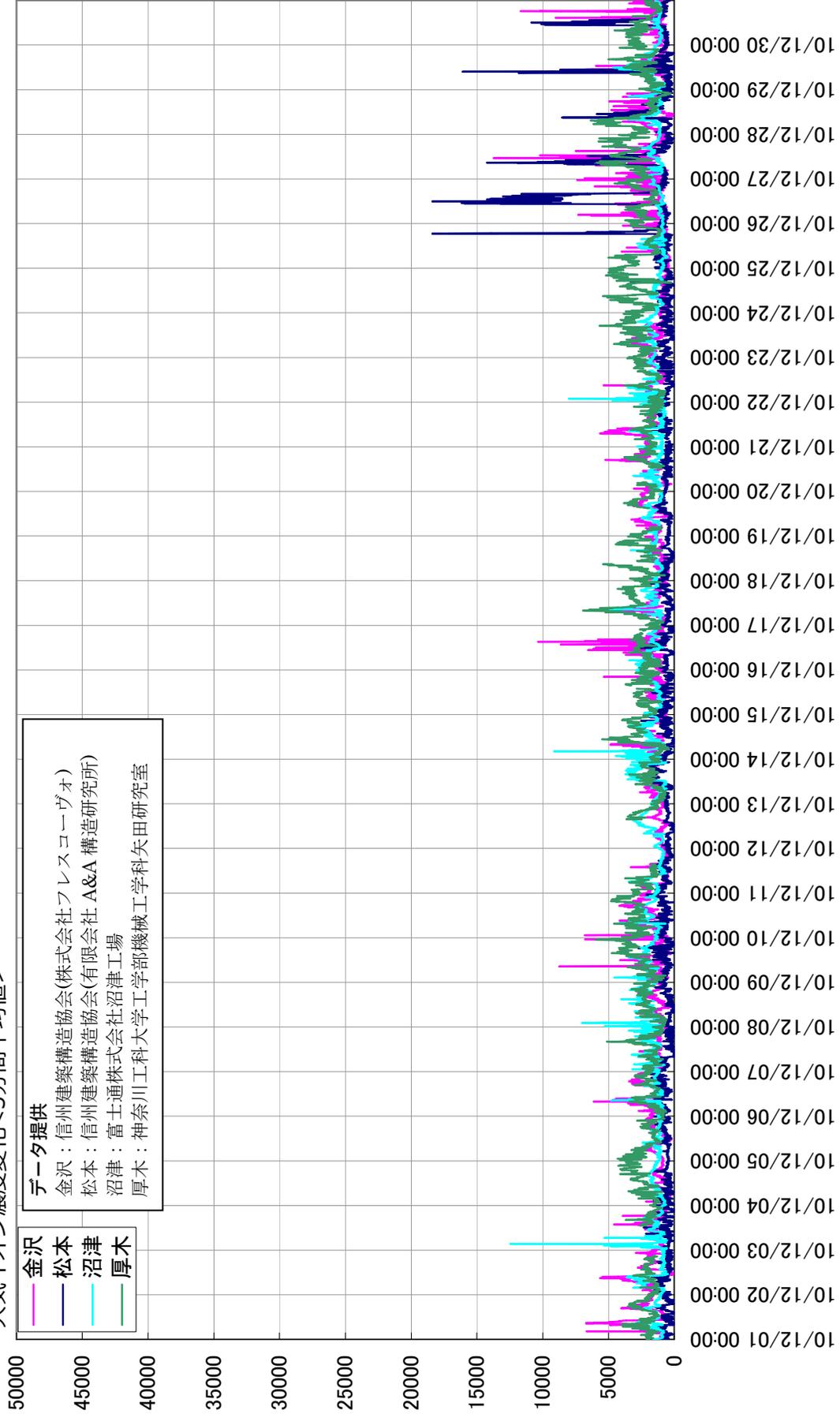
2011 01/01 00:00 -- 2011 03/17 23:59



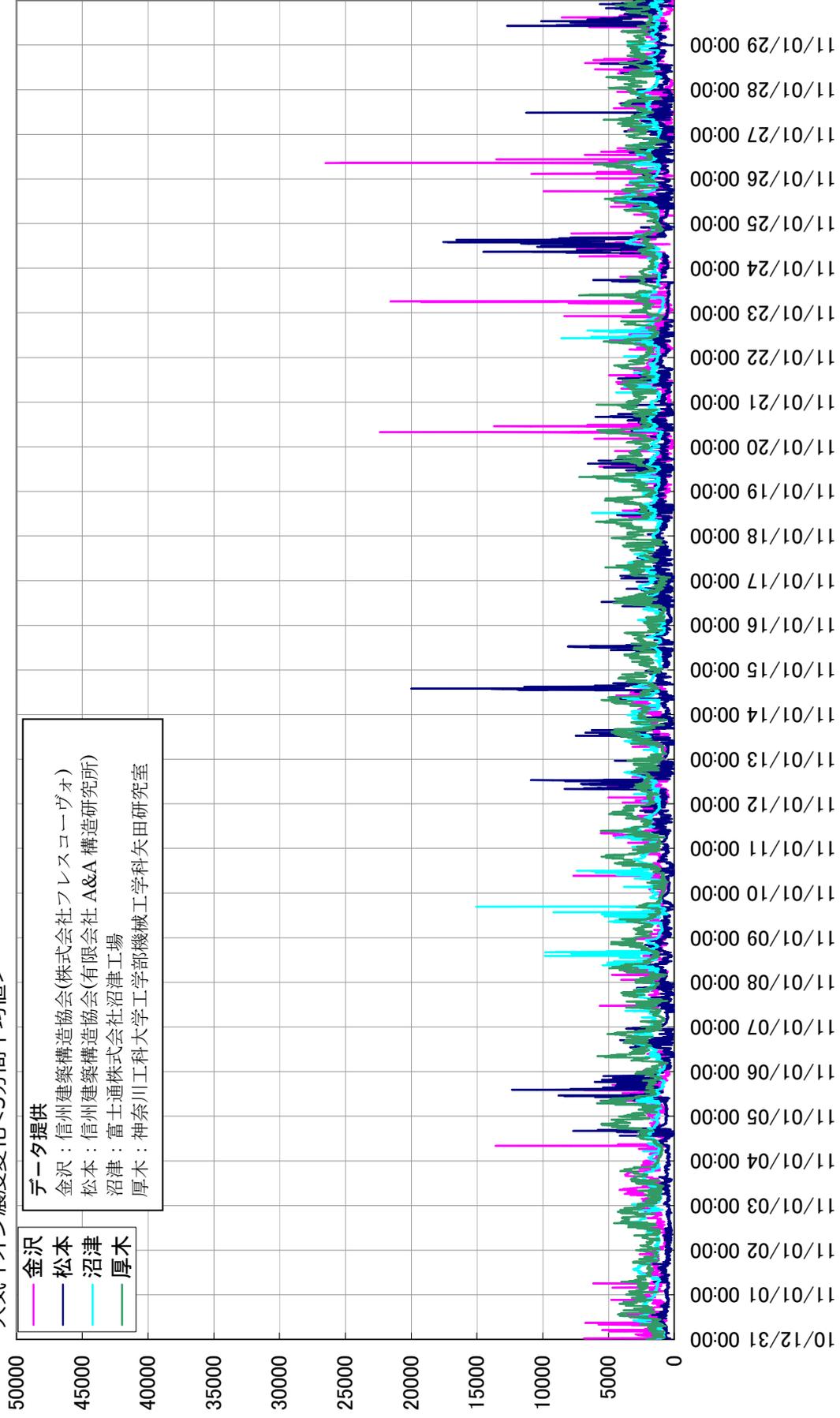
## 日本付近のプレート模式図(防災科研より)



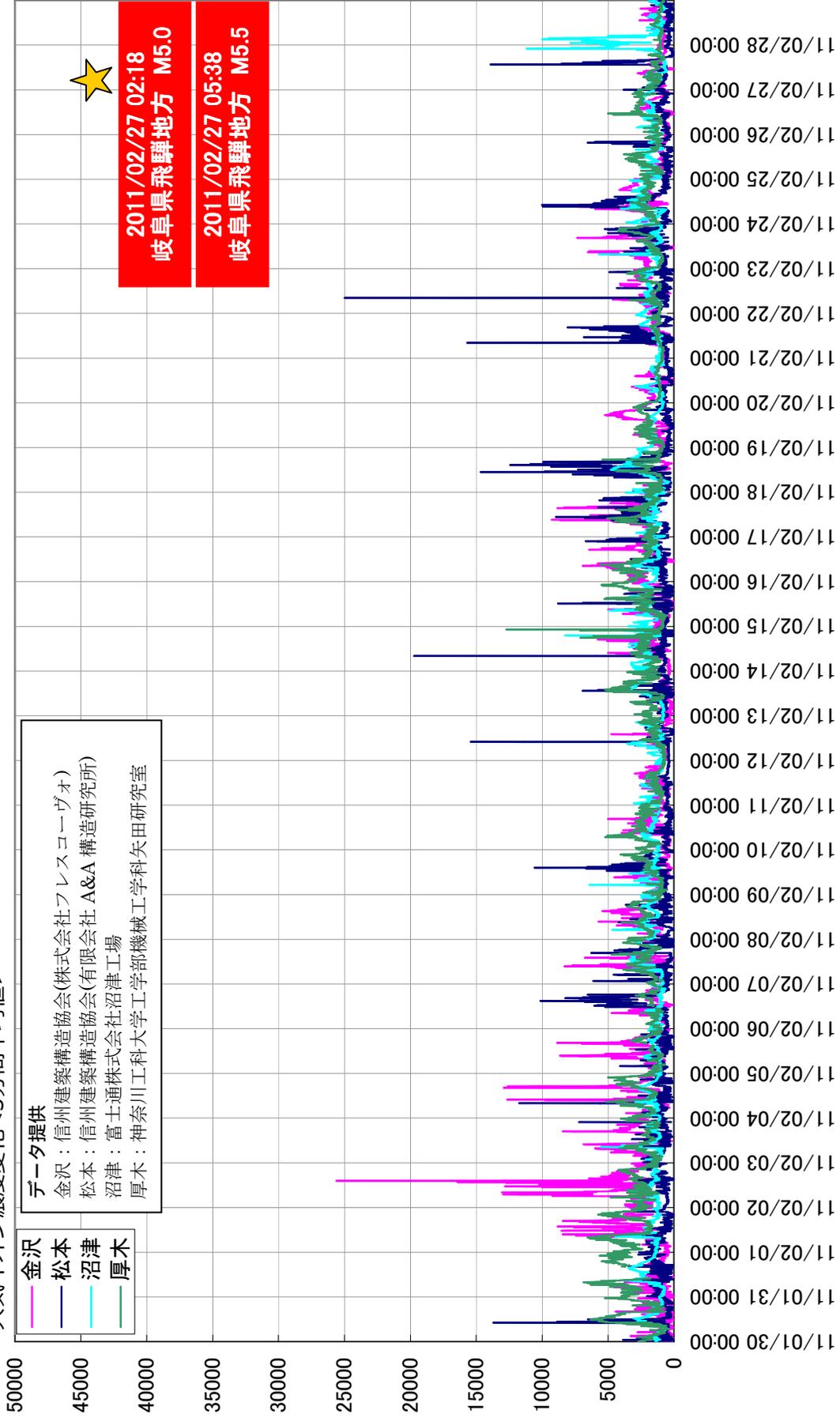
大気イオン濃度変化<5分間平均値>

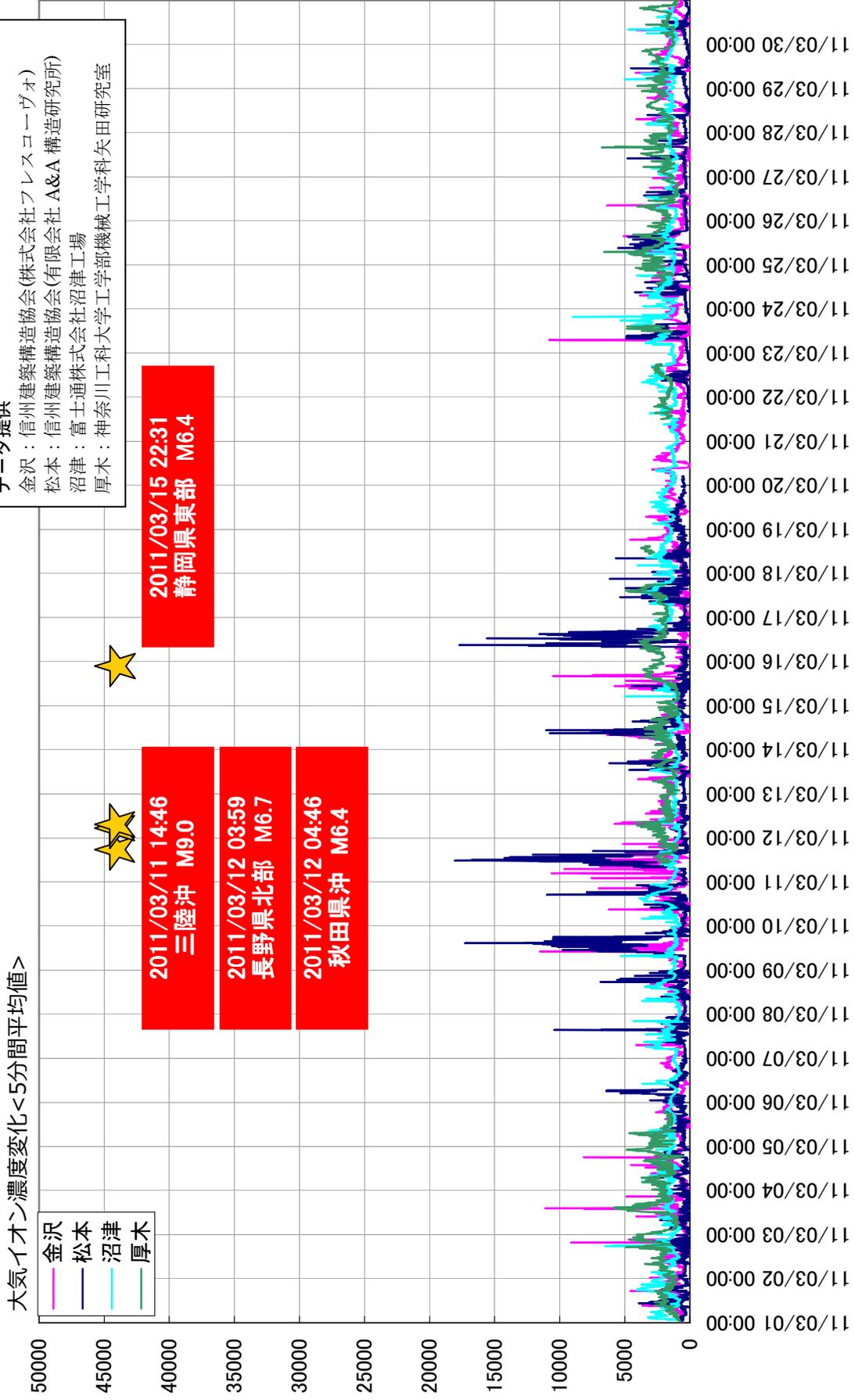


大気イオン濃度変化<5分間平均値>



大気イオン濃度変化<5分間平均値>





## ②東北地方太平洋沖地震の前兆情報募集

e-PISCO では、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の前兆現象を記録し、記憶を伝承することによって将来の減災に役立てることを考えています。皆様におかれましては、前兆現象と思われる異常な現象を目撃されていまして、ぜひ情報収集にご協力くださいますようお願い申し上げます。

東北地方太平洋沖地震の前兆現象のご報告方法は、以下の4通りあります。ご家族やお知り合いの方々にも、この取り組みをご紹介くださいますようお願い致します。

### 1. 特設報告サイト

特設サイトから市民メンバー登録していただき、画面に表示される項目にしたがって報告していただきます。

特設サイトは・・・<http://www.e-pisco.jp/> からアクセスすることができます。

### 2. 電子メール

電子メールで、次の内容をご報告ください。

お名前
年齢
ご職業
おところ
異常現象観察日時
異常現象観察場所
前兆現象の内容

送信先は・・・[koukan311@e-pisco.jp](mailto:koukan311@e-pisco.jp)

### 3. FAX

別紙の専用報告用紙に記載の上、弊会事務局にファクシミリでお送りください。

FAX 番号は・・・06-6444-3781

### 4. 郵便

専用報告用紙の内容を郵便でお送りくださっても結構です。写真などを同封して頂いても構いません。

送り先は・・・〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目4-21

日宝肥後橋中央ビル304号

NPO 法人大気イオン地震予測研究会 e-PISCO

「3・11前兆現象」係

阪神淡路大震災の地震雲(杉江輝美氏撮影)

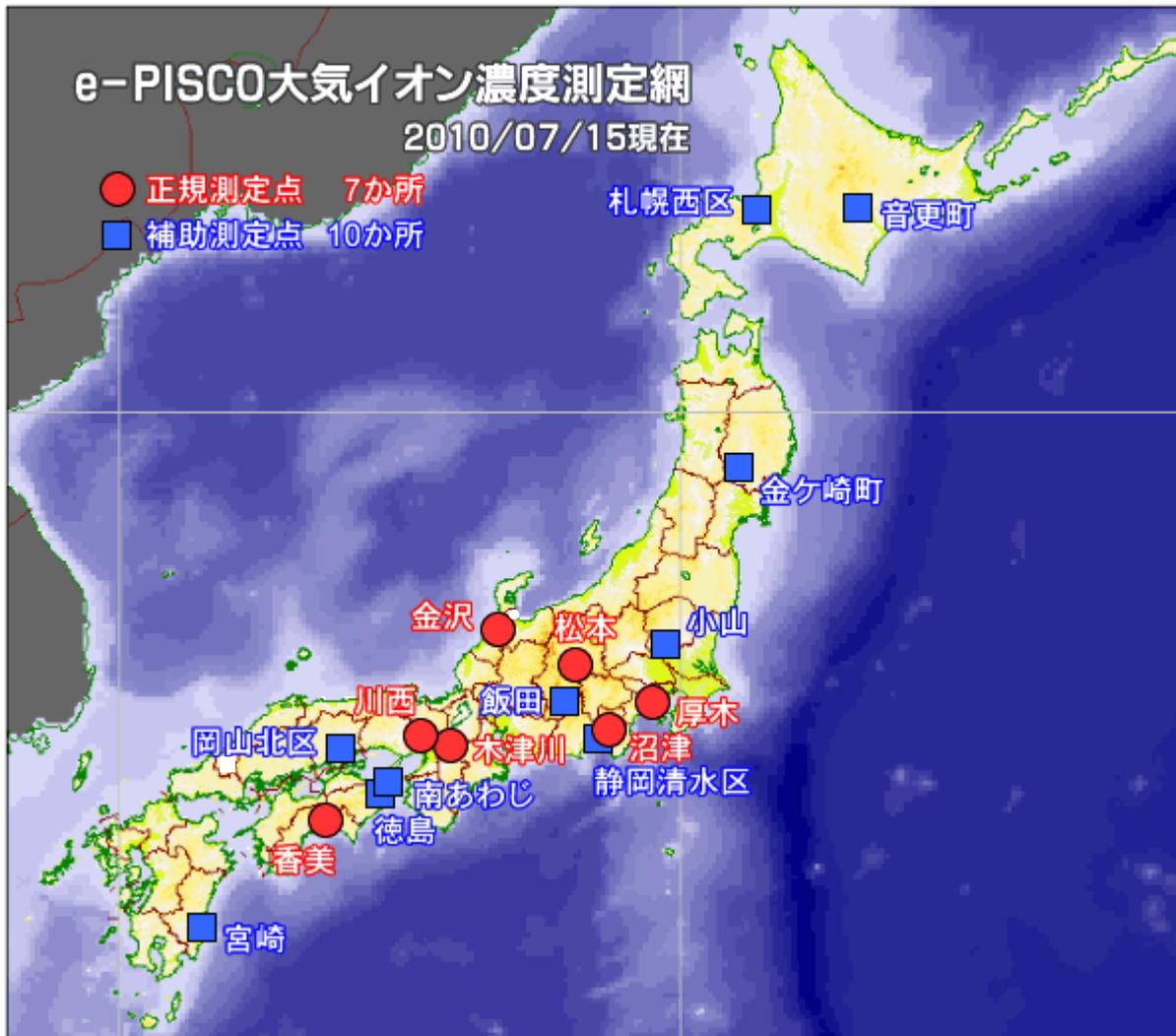


1999年台湾中部地震のミミズ(曾文全氏撮影)





# 資料 1 大気イオン濃度測定ネットワーク



**正規測定点**      使用機器：COM-3700(コムシステム株式会社)

測定点名	管理者	設置日
神奈川・厚木	神奈川工科大学 工学部 機械工学科 矢田研究室	2004/08/01
長野・松本	信州建築構造協会(有限会社 A&A 構造研究所)	2004/05/22
静岡・沼津	富士通株式会社 沼津工場	2005/10/31
金沢	信州建築構造協会(株式会社フレスコーヴォ)	2010/06/18
京都・木津川	積水ハウス株式会社 総合住宅研究所	2006/09/13
兵庫・川西	弊会本部	2004/05/01
高知・香美	高知工科大学 ナノデバイス研究所	2010/05/03

**補助測定点**      使用機器：EIM-10

測定点名	管理者	設置日
札幌・西区	山の手博物館	2010/07/15
北海道・音更町	株式会社北開水工コンサルタント	2010/02/04
岩手・金ケ崎町	株式会社富士通ファシリティーズ・エンジニアリング 岩手事業所	2010/05/21
栃木・小山	ご協力個人	2009/12/21
長野・飯田	信州建築構造協会	2009/08/01
静岡・清水区	株式会社渡邊工務店	2009/10/28
兵庫・南あわじ	南あわじ環境防災センター(株式会社出田鐵工)	2010/02/03
岡山・北区	岡山理科大学 理学部 応用物理学科 蜷川研究室	2009/11/04
徳島	徳島大学 工学部 工学基礎教育センター	2010/02/02
宮崎	宮崎大学 工学部 電気電子工学科	2009/12/17

## 資料 2 大気イオン濃度測定器

### (1) 正規測定点 COM-3700



メーカー	コムシステム株式会社
測定範囲	プラス大イオン(0~5,000,000 個/cc) ※通常は 0~50,000 個/cc にレンジ設定
測定方式	エーベルト氏式 ゲルディエンコンデンサ法
本体寸法	全長 680mm
本体重量	約 9kg
電源	AC100V±10%
消費電力	50W 以下
吸引流量	50 リットル/分
環境測定	温度・湿度

### (2) 補助測定点 EIM-10



### 資料3 大気イオン法で前兆を捉えた主な事例(今回除く)

地震名	発震年月日	規模	最大震度	地震前時間	感知した測定点数	最寄り測定点までの距離
鳥取県西部地震	2000/10/06	M7.3	6強	約106日	1	83km
芸予地震	2001/03/24	M6.7	6弱	約7日	1	130km
紀伊半島南東沖地震	2004/09/05	M7.4	5弱	約25日	3	343km
新潟県中越地震	2004/10/23	M6.8	7	約11日	1	206km
福岡県西方沖地震	2005/03/20	M7.0	6弱	約3日	1	361km
千葉県北西部	2005/07/23	M6.0	5強	約7日	2	73km
伊豆半島東方沖	2006/04/21	M5.8	4	約12日	3	41km
和歌山県北部	2006/05/15	M4.5	4	約4日	3	45km
千葉県南部	2006/05/20	M4.7	3	約9日	2	21km
大分県西部	2006/06/12	M6.2	5弱	約25日	5	290km
能登半島地震	2007/03/25	M6.9	6強	約5時間	1	307km
三重県中部	2007/04/15	M5.4	5強	約32時間	1	57km
愛媛県東予	2007/04/26	M5.3	4	約4日	2	95km
新潟県中越沖地震	2007/07/16	M6.8	6強	約11日	3	158km
茨城県沖	2007/05/08	M7.0	5弱	約16日	1	220km
岩手・宮城内陸地震	2008/06/14	M7.2	6強	約31日	1	417km
岩手県沿岸北部	2008/07/24	M6.8	6弱	約5日	1	514km
駿河湾	2009/08/11	M6.5	6弱	約56日	1	51km

### 資料4 弊会概要

代表者	理事長代行 矢田 直之 神奈川工科大学准教授
設立	2004年(平成16年)4月7日
事業内容	大気イオン濃度測定器研究開発事業、全国的な大気イオン濃度測定事業、測定データのオンライン収集・処理・配信事業、研究成果の普及啓発事業
会員	210名(平成23年3月31日現在)